

(数学Ⅱ) 学 習 指 導 案

日 時	平成29年 6 月14日 (水) 第3時限	授業者	佐竹 雅範
ク ラ ス	電気電子科 2年	場 所	142教室
単 元	1 章 方程式・式と証明	教科書	新編 数学Ⅱ (東京書籍)
指 導 目 標	1 ある整式を1次式で割ったときの余りを剰余の定理を用いて求めることができる。 2 剰余の定理を基に因数定理を理解し、簡単な高次方程式を解けるようになる。	指 導 計 画	3 節 高次方程式 1 因数定理・・・・・・・・・・2時間 (本時はその1時間目) 2 簡単な高次方程式・・・・3時間

本時の指導

主 題 (教 材)	剰余の定理、因数定理について				
前 時 の 課 題	課題プリントを解いておく。				
目 標	1 剰余の定理を基に因数定理を理解し、3次式の因数分解に活用できるようにさせる。 2 グループ活動の中で積極的に意見を出し合い、定理について理解を深めさせる。				
指 導 程 序	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 の 方 法 ・ 規 準 等	
	指 入	1 課題プリントを解答する。 2 本時の目標を確認する。	5	・ 始業までに板書させておく。 ・ 課題の内容から本時の内容につなげる。	・ 課題プリント 【評価規準】 ・ 整式の除法が正しくできているか。 <知識・理解>
	展 開	1 整式を1次式で割ったときの余りを、除法を用いないで求める方法を考える。 2 剰余の定理について理解する。 3 問4を解く。 4 余りが0になる場合、どのようなことがいえるか考える。 5 因数定理について理解する。 6 問6を解く	20 20	・ グループで話し合わせ、意見を発表させる。 ・ $P(x) = (x - \alpha)Q(x) + R$ を確認させる。 ・ 机間指導を行い、定理を理解させる。	【評価規準】 ・ 積極的に話し合っているか。 <興味・関心> 【評価規準】 ・ 定理を用いて、正しく解けているか。 <数学的な技能>
	整 理	1 本時のまとめをする。 2 次時の課題を確認する。	5	・ 本時の学習内容について発表させる。	
	備 考	生徒数 34 名 (男子 33 名, 女子 1 名)			